



飯山白山森林公園
庫裏橋の日の出
(撮影：小林会員)

令和8年1月号 Vol. 261
(2026年)

あつぎ観光ボランティアガイド協会
ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>
メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行：令和8年1月12日

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

新年明けましておめでとうございます。

昨年は市制70周年と飯山観音開山1300年のメモリアルの年でした。

また、気候変化が大きく一昨年に続き猛暑の夏でしたが、会員の皆様の協力と対応で無事に乗り切る事が出来ました。あらためてお礼申し上げます。

今年は60年に一度の丙午(ひのえうま)の年です。十干の「丙(ひのえ)」と十二支の「午(うま)」が重なる年で、どちらも「火」の性質を持ち、強い情熱と行動力が際立つ一年になるそうです。

当協会としても、馬のように軽やかに目標に向かって駆け抜ける一年にしたいと思っています。

本年も、皆さまの健康とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、共に新たな挑戦を、楽しみながら進んでいける一年にしていまいりましょう。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



令和8年 元旦 会長 田頭 文昭

《秦野権現山・弘法山の秋を歩く》

行事区分：企画ガイド（ハイキング）

日 時：11月28日（金） 9：30～14：15

場 所：秦野駅～浅間山～権現山～弘法山～吾妻山～鶴巻温泉駅

参 加 者：一般25名、会員6名

今回のハイキングは、事前・当日を含め1人のキャンセルも出ずに募集定員どおり、25名のお客様にご参加頂きました。

当日は、慣れない秦野駅前での集合でしたが、時間前には全員がそろい、挨拶や準備体操の後、2班に分かれ出発しました。

まず始めに弘法の清水に立ち寄り、その後弘法山公園入口に向かいます。ここからは、いよいよ山登りの始まりです。登山開始から30分程度がこのコースの登りのほとんどを占めるので、脱落者が出るのではないかと少々心配でしたが、息を切らしながら登る人は見受けられたものの、全員無事に浅間山を経由し本日の見どころの権現山に到着しました。

昼食場所でもある権現山の展望は素晴らしく、展望台からは、よく晴れ渡った青空を背景に、箱根山から富士山を経て丹沢に至る山々がくっきりと見え、特に富士山は前日降った雪が山肌を覆い、ひときわ美しく見えました。

聞くとところによると、昨年企画した弘法山ハイキングも天気が良かったとの事で、この景色が見たくてリピーターとして今回も参加された方もおられたようです。



浅間山にて

小春日和の暖かい日差しを受けながらの昼食の後、この美しい風景をバックに写真を撮る方も多く、お客様も大満足の様子、どの顔からも笑みがこぼれていました。

その後、弘法山を経て善波峠を経由し、吾妻山から鶴巻温泉へと向かい、駅の近くの弘法の里湯前で解散となりましたが、今回の行程、約7.5キロの半分ほどを占める、弘法山から解散時点までは、善波峠や吾妻山など休憩を兼ねた説明箇所もありますが、全体的に眺望も良いとは言えない単調な道が続くので、参加された方の中には少々飽きた様子も見

受けられました。

花の季節なら、山野草を見つけながら歩く楽しみもあるとは思いますが、澄んだ青空に富士山の雪景色は、やはり冬の贈り物なので、季節を選ぶのも、なかなか難しいことだなと思いました。

（根岸 記）



権現山山頂

《秋の文化財一般公開》 「小鮎の古刹をたずねて」

行事区分：行事支援

日 時：11月29日（土）、30日（日）各日 9：30～15：30

場 所：本禅寺、本照寺

参 加 者：会員7名

本 禅 寺（飯山）

今年の秋の文化財一般公開は日蓮宗の本禅寺と本照寺でした。私は本禅寺を担当することにしました。令和2年から4年にかけての本禅寺本堂耐震補強工事を見学された方から、井上五川の天井絵を見せて貰って、また実物が拝見したくての参加でした。

本禅寺の歴史も場所さえも知らない私でしたが、田頭会長や市役所の担当者と一緒に下見をして何とか概要を把握する事が出来ました。



100 枚の天井画

初日当日は1時から40分佐伯英里子様の文化財トークがあり20数名が参加しました。時代背景に沿ったわかりやすく面白いトークで、驚いた事は天井絵の100枚を井上五川だけでなく優秀な弟子も手伝ったようだとされた事でした。良く見ますと牡丹の花も立体的に描かれている物とそうでないのがあります。また描かれた絵は一枚板ではなくほとんど二枚板で三枚板にも描かれている事、知らない私は一枚板が割れたのかと思いました。そして絵の具は、にかわを溶かして顔料と混ぜた物を使っているので160年経過しても色あざやかに残っているとの事、当時この絵の具は高価だったようです。花や鳥、植物の絵だけでなく寒山捨得の絵や「行年六十八歳偶言五川」の落款のある絵、蟹とか蜘蛛とか言っていた絵は実は宝珠の絵であると話されました。見学者は貰ったシールの絵がどこにあるか探して楽しんでいました。

本禅寺について、寛永18年（1641）建立当時の姿を良く残し県指定重要文化財である本堂の説明や西谷壱兵衛と記された棟札の話などしましたが、パンフレットに載っていない本堂の丸柱は小田原にあった本蓮寺の時の物を運んで使用しているので400年以上昔の柱である事、鬼子母神の話などをすると喜ばれました。

見学者はタウンニュースを見た市内の方が多く、市のホームページからと言う平塚や秦野の方、他には東京や横浜の方も居ました。大学生らしい若者、家族連れ、今から歩いて本照寺に行かれる方またそちらから来られる方、本堂の階段を息子さんに抱かかえられながら上って来られたご母堂があり、微笑ましい光景もありました。

見学者から「ありがとうございました」と言われる度にほっとしながら「また文化財公開時にはお出掛けください、お待ちしております」と言葉を返しました。

歴史的にも価値のある良い物は沢山の方に見て貰いたく宣伝効果を高めたいと思いました。

見学者は 29 日は 97 人、30 日は 74 人でしたが両日とも天候に恵まれ学びの多い 2 日間でした。
(佐々木 記)

本 照 寺（下古沢）

本照寺は日蓮宗総本山身延山久遠寺の 11 世で久遠寺中興の祖といわれる日朝上人の創建です。この日は寺主催でマインドフルネスと写経体験も開催されました。文化財一般公開は 10 時からでしたが、両日とも開始時間を間違えて、時間前に来られたお客様が何人もいましたが、副住職が写経体験の開始時間を早めてくださり、開始時間までそちらに参加していただきました。写経体験は他宗派の人も参加しやすいように、また時間のない人のため、般若心経等いくつかの御経から選べるよう配慮されていました。



公開されたのは鰐口と仏涅槃図。鰐口は銘文に永禄九年（1566）4 月小合（下荻野子合）の大工清次が鑄造したことが刻まれ、県重要文化財に指定されています。仏涅槃図は荻野新宿の絵師難波洞雪筆の作品です。鰐口では厚木の鑄物師について、仏涅槃図では絵解きを中心に説明しました。

29 日 14 時 10 分からは厚木市文化財保護審議会委員の佐伯英里子氏により「郷土の絵師を知る。」をテーマに文化財トークが開催され、宝物館の 2 階は満員の盛況でした。難波洞雪の技量、弟子入した駿河台狩野家のこと、洞雪の描いた涅槃図の絵解き等々、貴重なお話を伺うことができました。文化財トークは 14 時 50 分まででしたが、多くの方が残って先生に質問されていました。

宝物館には、鰐口と涅槃図のほかにも多くの収蔵品がありましたが、事前の情報がなく、当日拝見し、日蓮大聖人御一代図絵の絵解きや日蓮上人の御臨終の図では本間重連が描かれていたので本間氏の説明等できる範囲で対応しました。

副住職も時々説明に来てくださり、そのときに収蔵品についてお尋ねし、説明の幅を広げました（丸山応挙の孫、丸山応震の幽霊画、香淳皇后の父久邇宮邦彦王の書道の師であった丹羽氏厚子爵の書等々）。
(清田邦男 記)

《湘南平・大磯海岸ハイキング》

行事区分：企画ガイド（ハイキング）

日 時：12 月 11 日（木）10：00～15：00

場 所：湘南平、延台寺、照が崎海岸

参 加 者：一般 24 名、会員 6 名

今年最後の企画は昨年 5 月中止になった大磯ハイキングです。弘法山に続き、募集人数は定員に早くに達して人気がありました。

大磯観光協会は資料、集合場所の提供などとても親切で、今後厚木とも協力していければと思いました。

コースはガイドポイントを減らし、余裕の行程にしました。大磯駅前で湘南発祥の碑、三菱財閥孫娘澤田美喜が創設した児童養護学校エリザベスサンダースホーム、大磯駅舎の説明をしてから、湘南平に向かいました。途中、楊谷寺横穴墓の説明では、多くのお客様が穴の中まで興味深く覗いていました。湘南平迄は緩い登りコースを選択したので、問題なく到着。期待の富士山、箱根、丹沢、湘南方面が見えました。これが、まさに 360 度眺望です。前日に「日向山火災」の報道があったので、「煙出ていない？」と皆心配してその方向を見ていました。また、先月のハイキングで行った権現山、弘法山も見え、そこへ行ったお客様は喜んでいました。

今回は「曾我兄弟の仇討ちと虎御前」をサブテーマとしたので、ゆかりがある「延台寺」に寄りました。ご住職自らのお話と宝物「虎御石」、普段は見られない本堂内部を特別拝観させて頂きました。本堂ではお釈迦様涅槃図、日蓮上人の生涯を描いた欄間彫刻が見事でした。30 名も迎え、ご住職は熱が入っていたようで、大変貴重なお話を頂きました。会員からは東海道広重絵「虎が雨」と「曾我物語」「虎御前」の錦絵を見せながら、悲しい逸話も加えました。照が崎海岸は強風でしたが、皆さんと波打ち際まで降り、アオバト飛来地の岩礁、冬の富士山と海岸コラボは今までになかった企画で満足していただいたのではと思います。海水浴場発祥地と大磯の立役者松本順は省略できません。島崎藤村邸では、大磯ガイド協会の説明（定点ガイド？）がありました。



延台寺にて

照が崎海岸は強風でしたが、皆さんと波打ち際まで降り、アオバト飛来地の岩礁、冬の富士山と海岸コラボは今までになかった企画で満足していただいたのではと思います。海水浴場発祥地と大磯の立役者松本順は省略できません。島崎藤村邸では、大磯ガイド協会の説明（定点ガイド？）がありました。

夕暮れは早く、寒くなるので、この冬のハイキングが無事、定刻 15 時に終了できたのは一番だったのではと思いました。

（石川 記）



湘南平での集合写真（富士山をバックに）

2025 年度定点ガイド「飯山観音・特別御開帳」実施報告

2024 年度に引き続き飯山観音で定点ガイドを行いました。今年度は飯山観音開山 1300 年ということで、十一面観音の御開帳日が例年より増えて、春と秋に 16 回実施されるため、あつぎ観ボウも御開帳日に合わせてガイドを行ないました。

1、年間実績 午前10時～午後3時（5時間の実績）

No	ガイド 実施日	曜日	参加 会員数	ガイド した組 数	ガイドし た人数	広場に登 ってきた 人数
1	4月8日	火	5	24	58	346
2	4月20日	日	6	23	45	163
3	4月27日	日	5	26	77	209
4	5月4日	日	3	9	18	265
5	5月11日	日	6	11	19	168
6	5月18日	日	4	11	32	161
7	5月25日	日	6	19	54	88
8	11月2日	日	4	13	37	140
9	11月3日	月	3	10	18	132
10	11月16日	日	5	13	62	256
11	11月23日	日	6	17	39	244
12	11月24日	月	5	3	15	232
13	11月30日	日	5	17	45	327
14	12月6日	土	6	14	26	216
合計	14回		69	210	545	2,947

1) 4月13日（日）、11月9日（日）は雨天のためガイドを中止

2) 11月16日はツアー会社からの依頼ガイド36名を含む（3組でガイドを実施）

合計14回の定点ガイドを実施し、ガイドした人数は545名でした。その内訳は厚木市内40%、神奈川県（厚木市以外）32%、他県・外国人28%でした。

2、良かった事

1) 来られた方が、我々がガイドを行ったことで喜んでいただけた。

（多分、坂東三十三観音で定点ガイドを行っているのはあつぎ観ボウだけ）

2) お客様に寄り添って観音堂内に入って一緒にお参りしたり、境内の坂東三十三観音石像巡りに同行するなど広範囲な活動が出来た。

3) 会員がその日に出来なかったポイントを次回のために勉強したり、先輩の会員がガイドしている内容を見たりして次のガイドに生かす事ができた。

3、今後の課題

複数の家族を同時にガイドする際は、相手側の都合などがあり工夫を要する。（澤田 記）



訪問ガイド研修「ディープな小田原城探訪」

行事区分： 訪問ガイド研修

(かながわガイド協議、担当：NPO 法人 小田原ガイド協会)

日 時： 12月12日(金) 8:50～12:15

場 所： 小田原駅西口～北条早雲公像～おしゃれ横丁～氏政氏照の墓～ミナカ小田原
～幸田門跡～大手門跡～馬出門～銅門～伝障子堀跡～本丸下石垣～常盤木門
～本丸～御用米曲輪～八幡山古郭東曲輪

参加者： 会員2名

集合時間は9時。8時40分受付を済ますと3班に入るよう指示されました。8時45分頃、集合時間前でしたが1班が出発。受付順に班を指定し、そろい次第出発する方式と知りました。一緒に参加したK会員は8時20分の受付で1班でしたが、受付を済ませた参加者が集合時間まで間があるので、食事に行き出発が遅れたそうです。3班も8時50分11人のメンバーがそろい出発。この方式は待ち時間が少なく、出発時間も分散できる利点があり、次回当会が訪問ガイド研修を担当する際には一考に値すると感じました。

ガイドは一气通貫。出発前にガイドホンが配られ、説明もイヤホーンを通じてはっきり聞き取れました。

駅西口の北条早雲公像から始まり、東口への連絡通路にも片岡鶴太郎さんが小田原の魚、桜、梅、みかんなどを描いた陶板レリーフ、巨大な小田原提灯と見どころがありました。東口ではおしゃれ横丁を通り、秀吉の小田原攻めの際切腹した北条氏政、氏照兄弟の供養墓、令和2年に建てられた飲食店を中心にホテル、公共施設が集まるミナカ小田原を経て、いよいよ小田原城です。小田原城は秀吉を迎え撃った城下町を囲む総構の印象が強いのですが、説明によると上杉謙信や武田信玄が小田原を攻めた時は二の丸までが城内(二の丸外郭)で、その後、三の丸外郭が作られ、秀吉の小田原攻めに備え総構ができたとのことでした。



弁財天通りでは、堀は既に埋め立てられ、幸田門、大手門とも建物はなかったのですが、当時の絵図や資料で城の様子を示してくれました。幸田門跡付近は土塁(櫓の跡だけ石垣になっていました。)が、大手門跡は石垣が一部残り、昔をしのばせてくれます。

三の丸ホール(小田原市民ホール)で休憩。3階からは天守、常盤木門、銅門、馬出門、隅櫓が一望できます。

ここから、馬出門、銅門と進みます。伝障子堀跡と小峰曲輪を見学。近世城郭となる前の戦国時代の城の貴重な遺構です。途中には関東大震災で崩落した本丸の石垣がそのまま残り、江戸時代の石垣の積み方や構造を知ることができます。

昭和 46 年に再建された常盤木門は鉄筋コンクリート造。銅門と比べて外見上遜色なく見えますが、石垣と柱がぴったりくっついている銅門に比べ間が空いている常盤木門は作りが雑とのことでした。

本丸、天守閣前を通り、江戸時代、幕府天領の御用米を納めた御用米曲輪へ。ここからは戦国時代北条氏の庭園跡が発掘されたそうです。

小田原城は本丸に将軍の御殿があり、馬屋曲輪の馬屋は将軍家専用というように江戸初期は将軍上洛用の施設としての役割を果たしていたそうです。

最後に東海道線を越え東の丘陵にある戦国時代の小田原城を形成した八幡山古郭・東曲輪に登り、市内を一望し、解散となりました。

半日コースですが、狭いエリアに見どころがたくさんあり、ディープな小田原城を満喫できました。

ガイドの方が「曲輪」、「狭間」等の用語を書いた紙を示して説明していたのが、わかりやすく印象に残りました。
(清田邦男 記)

最近の活動

日 付	場 所	内 容	参 加 者
12 月 4 日	秦野市、大磯町	企画ガイド 下見 「湘南平・大磯海岸ハイキング」	会員 3 名
12 月 6 日	飯山観音	定点ガイド（フィナーレ）	会員 6 名
12 月 11 日	秦野市、大磯町	企画ガイド 「湘南平・大磯海岸ハイキング」	会員 6 名
12 月 12 日	小田原市	訪問ガイド研修	会員 2 名
12 月 13 日	アミューあつぎ	定 例 会	会員 16 名
1 月 7 日	厚木北公民館	編集会議	会員 3 名

編集後記

「目出度さも ちう位也 おらが春」（小林一茶）。今年のお正月も、いつもの様に迎えることが出来ました。厚木市内の社寺で初詣をされた方もおられるのではないのでしょうか。昨年の企画ガイドは大きな事故やトラブルもなく無事に出来てよかったと思います。今年も安全で、参加者に楽しんでもいただける様なガイドを実施していきましょう。

編集委員 小林 直樹 澤田 正弘 清田 邦男